

総選挙での「惨敗」を踏まえて

川崎市議会議員 ほりぞえ健

9月11日の総選挙において、民主党は177議席から113議席へと大敗を喫することになりました。地元18区(高津区・宮前区)におきましても、ひだか剛さんの議席を守ることができませんでした。ご支持、ご支援いただいた多くのおみなさまに深く感謝するとともに、ご期待に応えることができなかつたことを心よりお詫びいたします。

(事務局)

9月11日に行われた総選挙において、民主党は大敗しました。一番の原因をどのように考えていますか。

(堀添)

今回の総選挙の争点は、やはり「改革」ということだったと思います。この争点において、有権者の多くは私たち民主党よりも自民党を中心とする政権与党に期待をされ、選択をされたのだと思います。このことは私たちとしても、非常に重く受け止める必要があります。

その上で、選挙結果についていくつか述べますと、前回2003年11月の総選挙では樋高候補は38%の得票率だったのが、今回は候補者数が減ったにもかかわらず1.3ポイント減り36.7%となりました。逆に、山際候補は前回33.9%に対して5割以上も得票率を伸ばし、52.6%となっています。得票数

が全投票数の過半を超えていることは、留意する必要があります。

比例における得票率は前回と完全に逆転しており、高津区・宮前区で見ると、民主党は前回42.2%の得票率が今回は29.8%に、自民党は前回31.1%が今回42.3%となっています。

今回、投票率が9.86ポイント増え、65.5%と近年ではかなり高くなりました。今まで政治にあまり関心を持っていなかった有権者が投票に行き、その方々がマスメディアの報道に影響された結果だ、という方もいます。しかし私はむしろ、はじめに政治を考えてきたがゆえに、今回は自民党を選んだ、という方々が非常に多くいらっしゃることを感じています。

少子高齢化、人口減社会を迎え、さらに実質的に財政破綻している日本の状況は、一日も早く根本的な改革



- 1963(昭和38)年2月6日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
- 東京都三鷹市で9年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
- セブーンイレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
- 2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
- 市議会まちづくり委員会副委員長
- 民主党神奈川県第18区総支部副幹事長
- 経済産業省 システム監査技術者
- 妻と長女(中学3年)の3人家族

に着手しなければならないことは、多くの国民の共通認識だと思います。改革しなければならない仕組みを築いたのは他ならぬ自民党政権であり、「改革」に対する期待が高まれば高まるほど、民主党への支持が右肩上がりに高まる、と私たちは無意識のうちに考えていたように思います。私たちは、もう一度、地に足の付いた議論をきちんと行っていかなければなりません。

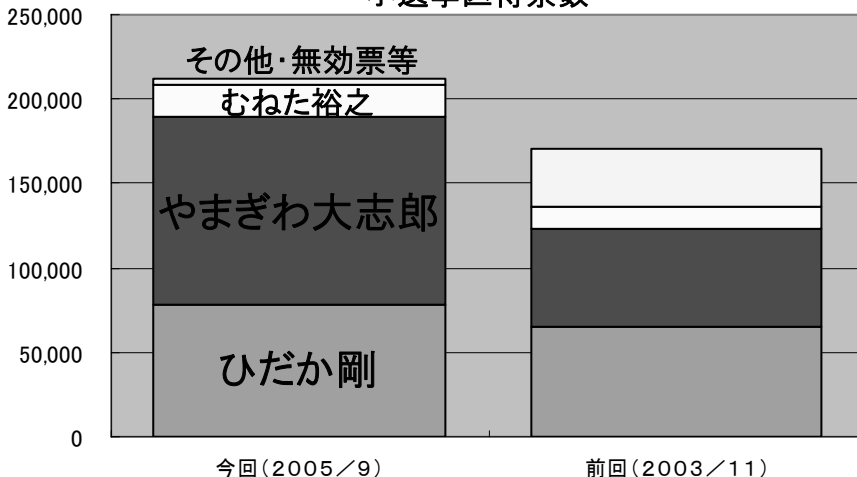
(事務局)

今後の民主党はどのような方向で進んでいくのですか。

(堀添)

民主党全体では今週末に代表を含めた新執行部の選出が行われる予定です。今回の選挙結果は、特に都市部

小選挙区得票数



において厳しい結果となりました。神奈川の状況もとても厳しく、選挙前は13人だった代議士数が、選挙後は2人へと大激減しました。参議院議員を含めても神奈川県から選出されている民主党籍の議員数は4名となってしまいましたので、かなり厳しい状況だと思えます。その意味でも、私たち地方議員が今までよりもさらに一歩、党運営にかかわっていかねばならないと思えます。

また、党組織のあり方、課題も今回明らかになったと思えます。民主党の場合、国会議員が中心となった組織形態となっていますし、財政的にも国からの政党助成金や国会議員からの寄付金に大きく依存しています。小選挙区の選挙では、現職国会議員が全員落選することも十分起こり得ますが、そうなると小選挙区だけでも300名の代議士候補が最長4年間、地元で活動できる資金的な

裏づけが不可欠です。そのためにも、党员やサポーター、個人からの資金援助により党が運営できるような構造に変えていかなければならないと思えます。

小選挙区による選挙は、まさに政権選択の選挙であることが、今回の選挙結果でも示されました。選挙で2/3の議席を占めた政権与党の側は、自信を持って掲げたマニフェスト、政策を実行する必要がありますし、私たち野党の側は、政権与党がマニフェストをきちんと実行しているかを厳しくチェックするとともに、政権与党の掲げたマニフェストが抱える課題、つまり、これでは日本の改革は実行できないということ、具体的に有権者に訴えていかなければなりません。

(事務局)

長時間にわたり、ありがとうございました。

(2005年9月13日)

小選挙区得票状況

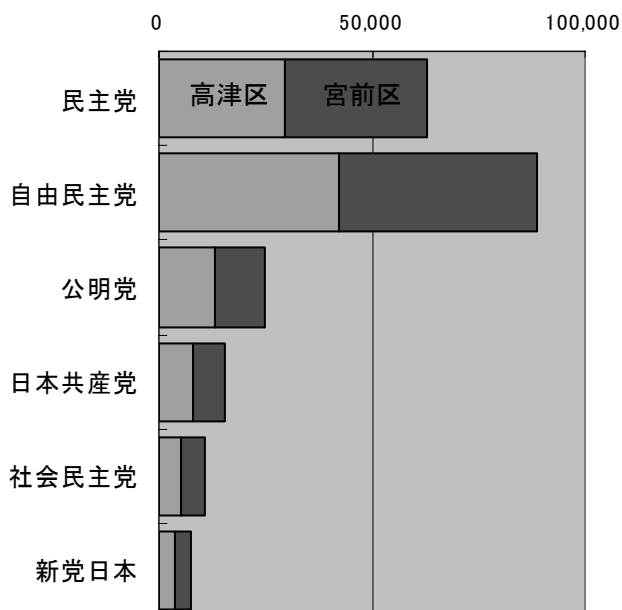
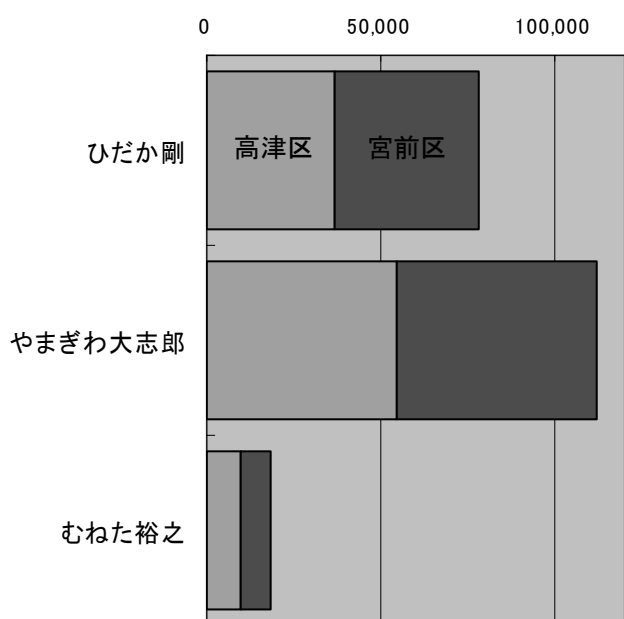
	計	得票数		計	得票率	
		高津	宮前		高津	宮前
ひだか 剛 (民主)	77,877	36,834	41,043	37.4%	36.5%	38.3%
やまぎわ大志郎 (自民)	111,787	54,492	57,295	53.7%	54.1%	53.5%
むねた 裕之 (共産)	18,345	9,501	8,844	8.8%	9.4%	8.3%

小選挙区投票率

計	高津	宮前
65.5%	64.0%	67.1%

比例区得票状況

	計	得票数		計	得票率	
		高津	宮前		高津	宮前
民主党	62,706	29,706	33,000	29.8%	29.2%	30.5%
自由民主党	88,794	42,261	46,533	42.3%	41.5%	43.0%
公明党	24,970	12,954	12,016	11.9%	12.7%	11.1%
日本共産党	15,557	8,161	7,396	7.4%	8.0%	6.8%
社会民主党	10,640	4,997	5,643	5.1%	4.9%	5.2%
新党日本	7,462	3,767	3,695	3.6%	3.7%	3.4%



比例区 南関東ブロック 開票結果（民主党）

比当	長浜 博行	比例単独	前		
比当	後藤 斎	山梨3区	元	61,716票	96.9%
比当	笠 浩史	神奈川9区	前	82,878票	95.6%
比当	永田 寿康	千葉2区	前	112,943票	90.8%
比当	岩國 哲人	神奈川8区	前	78,860票	89.5%
比当	内山 晃	千葉7区	前	104,630票	88.0%
比当	田嶋 要	千葉1区	前	105,459票	84.8%
	池田 元久	神奈川6区	前	102,429票	83.2%
	藤井 裕久	神奈川14区	前	107,608票	79.2%
	岡嶋 一正	千葉3区	前	85,707票	78.6%
	松崎 公昭	千葉8区	前	99,204票	77.1%
	田中 慶秋	神奈川5区	前	114,816票	75.7%
	生方 幸夫	千葉6区	前	82,636票	73.5%
	村越 祐民	千葉5区	前	94,528票	71.2%
	若井 康彦	千葉13区	前	75,909票	70.9%
	中塚 一宏	神奈川12区	前	75,865票	69.6%
	樋高 剛	神奈川18区	前	77,877票	69.6%
	谷田川 元	千葉10区	新	89,183票	69.5%
	大石 久子	神奈川4区	前	78,326票	65.4%
	青木 愛	千葉12区	前	92,611票	64.4%
	首藤 信彦	神奈川7区	前	92,721票	63.7%
	佐藤 謙一郎	神奈川1区	前	95,601票	59.1%
	加藤 尚彦	神奈川3区	前	76,625票	58.1%
	大出 彰	神奈川2区	前	91,723票	57.2%
	須藤 浩	千葉9区	前	79,514票	56.4%
	計屋 圭宏	神奈川10区	前	89,025票	55.4%
	長田 英知	神奈川16区	新	87,991票	55.2%
	坂口 岳洋	山梨2区	新	33,827票	53.0%
	阪口 直人	神奈川17区	新	89,901票	52.9%
	土田 龍司	神奈川12区	元	88,170票	50.5%
	土屋 正秀	千葉11区	新	70,589票	48.6%
	勝又 恒一郎	神奈川15区	新	83,490票	44.7%
	斎藤 勁	神奈川11区	新	50,551票	25.6%
小当	野田 佳彦	千葉4区	前	129,834票	
小当	小沢 鋭仁	山梨1区	前	70,281票	
	中沢 健	比例単独			

第22回「川崎市政に参加する会」のご案内

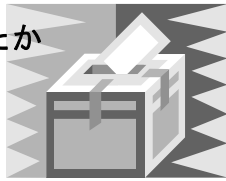
私たちの住む川崎市を「安心して暮らせるまち」にしていくためには、私たちの手でもっともって変えていかなければならないと思います。

一人一人の主権者の皆様とともに、新しい川崎市のあり方について、勉強し、議論し、実行していく場として、「川崎市政に参加する会」を開いています。

毎月、その時々にあったテーマを設定し、開催しておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第21回 9月21日 午後7時～ 高津市民館

「総選挙を振り返って」
一主権者はなにを選択したか



日時：2005年9月21日（水）
午後7時から8時半まで。

場所：高津市民館 第5会議室

溝の口駅前マルイファミリー12階

溝口1-6-10 044-812-1090



このニュースはご自宅にも無料で配送しております。毎月確実にご覧になりたい方は、ほりぞえ健事務所までご連絡ください。（電話：855-1479）

連載コラム 川崎と高津の地名（番外編）

参考：上田恒三著「高津村風土記稿」
日本地名研究所編「川崎の町名」

おかげさまで、この連載コラムには多くの反響をいただいております。過去のコラムをご覧になりたい方は、ほりぞえ健事務所までご連絡ください。なお、コラムは郵便番号の若い順に取り上げています。

- 17号：「川崎」の由来について
- 18号：「高津」の由来について
- 19号：「溝口」の由来について
- 20号：「二子」の由来について
- 21号：「瀬田」の由来について
- 22号：「諏訪」の由来について
- 23号：「北見方」の由来について

- 24号：「下野毛」の由来について
- 25号：「久本」の由来について
- 26号：「坂戸」の由来について



政治資金ご寄付のお願い

地元から日本改革を実現するために、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

「ほりぞえ健後援会」宛

郵便振替：高津郵便局 口座00270-1-24169
銀行振替：川崎信用金庫 高津支店 普通0796294

小選挙区を見ると、神奈川県0勝18敗、千葉県一勝二敗、埼玉県三勝二敗、東京都一勝二敗、都道府県別では、埼玉県が勝率八割、東京都が勝率七割、神奈川県が勝率六割、と、これだけの結果が出た。これは、私たちが民主党の惨敗に終わった。本日選出された原誠司新代表のもとで、敗北の原因を徹底的に追究し、民主党の再生に取り組んでいかなければならない。選挙後、多くの方から「あまりに逆風が強すぎたね」との慰めの言葉をいただいた。敗北により、心身ともに傷ついた中、暖かい思いやりの言葉は本当にありがたかった。しかし、とも思う。「風」を敗因と考えたが、私たちが、正確に逆風を強かたが、次のステップは、見えてこない。今回の総選挙の争点は、今後の日本を改革していくために、どちらの政党がふさわしいか、ということである。神奈川県を含め、とりわけ都市部の有権者の投票行動は、この観点で行われたように思う。まさに「改革」が焦点となつた総選挙において、野党である民主党が大敗をしたという事実は、改革政党を標榜しているわが党にとって、はかりしれないほど重い。この重みをしっかりと受け止め、主権者から信頼される政党へ脱皮をしなければならぬ。／（民主党は）政権交代のプレーヤーとして、国民から退場のレッシュドカードを突きつけられたわけでは決してないことを肝に銘じて欲しい。県内の比例代表選挙で、百三十万人を超える有権者が「次は民主党に政権を任せよう」と一票を投じている。自民党の約二〇三万に次ぐ期待値が注がれた重みである。／今回の民主党の惨敗は、いわば二大政党制定着の試練の通過点と言えないではないか。それを乗り越えたとときに初めて、小泉自民に対抗できる、真のライバル政党が産声を上げる。九月十三日付神奈川新聞のこの社説に、改めて私たち民主党の責任の重さを痛感する。今回の敗因をしっかりと分析するとともに、私たちが結党以来目指してきたものを再確認し、自らを責めて、私たちの責任を果たすことではないかと思う。（事務局ゆ）